

# ともに歩む



新発田市立藤塚小学校  
人権教育、同和教育便り  
令和3年9月1日 No.2

## 1 学期の取組を紹介します。

令和2年度に引き続き、校内研修で人権教育、同和教育を推進しています。「互いに認め合い、共に生きようとする子どもの育成」を研究主題として、人権学習を進めています。

各学級のお便りで紹介がありましたが、1学期の授業実践をご紹介します。2学期も実践を重ねていきたいと思えます。



### 1年生 「かみひこうき」

紙飛行機を作ることになり、赤やピンクの折り紙を選んだ主人公が、周りの友達から「女の子の色だ。」「女の子の使う色だ。」と言われたお話です。子どもたちからは、「そんなこと言われて悲しいと思う。」と考えが出ました。その後、筆箱・傘・手袋の絵に自分の好きな色を塗りました。3つのものにそれぞれの色を塗り、全員のを黒板に貼りました。「色で決め付けをすると、悲しい思いをさせると、決め付けしないで生活しよう。」とまとめをしました。



### 2年生 「たかしさんのズボン」

教室に落ちていた友達のズボンをふざけて投げ合う出来事が描かれたお話です。たかしさんのズボンをからかい投げ合う友達。何も言えずに泣いてしまうたかしさん。笑ったり、知らん顔で本を読んだりしている周りの友達。子どもたちは、「知らないふりをするのはおかしい。」「人のズボンを投げて遊ぶのはひどい。」など、憤りを感じていました。



最後に自分がその場にいたらどうするかを考え、いじわるをされている人を助けたいという気持ちを高めることができました。

### 3年生 「2週間たって～3年生 V r. ～」

4年生の実践を終え、資料を3年生に分かりやすいように改作して、授業を行いました。主人公は、濃厚接触者となった母親とともに2週間休むことになったが、久しぶりに学校に行くと、クラスの友達の態度の変化に傷ついてしまいました。「なんであいさつしてくれないの。」「なんでじろじろ見るの。」と主人公の気持ちに思いを寄せ、自分がその



場にいたら、見るだけではなく、行動することが大切だということを学習しました。

### 4年生 「新型コロナウイルスに対しての正しい知識を学び、差別をなくそう」

新型コロナウイルスについて、病気の基礎知識や国内感染者数の推移などを学習し、自分たちの周りでも感染の可能性があることを改めて感じました。資料のお話をとおして、予防の大切さとともに、感染した人や感染不安がある人が近くにいたら、陰口



やうわさ話をせずみんなが気持ちよく過ごせるようにしたいという思いをもつことができました。

## 5年生 「切られた心」

主人公が大切にしていたノートが切られてしまい、悲しい思いをしていたが、次の日の学級会で、クラスの友達からの様々な言葉を聞き、徐々に主人公の気持ちに変化していくという教材文です。どんな理由があっても、いじめをしていいことにはならない。「〇〇だから、いじめられても仕方ない。」という言葉は、絶対に言えない、ということ全員で確認しました。また、周囲の友達の言葉や行動で、勇気や力をもらうことができるということにも気付きました。自分の周りですらい思いをしていたり、苦しんでいたりする子がいるときは、見て見ぬふりをするのではなく、そのつらさに寄り添い、その人のためにできることを考え、行動できるようになってほしいと願っています。



## 6年生 「君の家にも牛がいる」

「君の家にも牛がいる」という絵本を資料に、1頭の牛から様々なものが作られ、自分たちの生活に役立っていることを知り、子どもたちは、「牛は人の生活を支えているから、ありがたいの気持ちをもちたい」という感想をもちました。次の時間に、牛がどのような過程を経て、人の役に立つものになっているかを学び、実際に動物の皮に触ってみる体験を行いました。「働く人や動物に感謝をする気持ちももったが、生きていたと思うとこわい感じがする」という感想があったので、こわいという気持ちに対して話し合いを深めました。2学期も人権学習を続け、子どもたちの命や差別への考え方を深めていきます。



**10月29日(金)は、研究発表会です。**

藤塚小学校を代表して、4年生と6年生の子どもたちが授業の様子を

他校の先生方に参観していただくことになっています。